



(1) キャンパス再編

- 赤羽台キャンパス
 - 情報連携学部
 - 福祉社会デザイン学部
 - 健康スポーツ科学部
- 朝霞キャンパス
 - 生命科学部
 - 食環境科学部
- 川越キャンパス
 - 理工学部
 - 総合情報学部
 - 環境イノベーション学部（仮称：2027年開設予定）

(2) 東洋大学公式アプリ

2022年から運用を開始し、大学からの重要な情報発信のほか、大学での学びやキャンパスライフにおける多種多様な情報を掲載している。緊急連絡機能も搭載し、2024年1月に発生した能登半島地震においても同アプリが活用された。

(3) キャンパス内留学英語講座

1クラス4名程度の少人数制グループレッスン（半期50回）とマンツーマンレッスン（半期10回）のいずれかを選択でき、どちらも1回40分。4月と9月に募集が行われる。

(4) 学校推薦入試基礎学力テスト型

学校長の推薦書と調査書があれば出願できる学校推薦で、既卒者も出願可能。試験科目は英語・国語または英語・数学で、英語は英語外部試験のスコアも利用できる。全学部全学科・専攻で実施し、他大学や東洋大学の一般選抜との併願も可能。



朝霞キャンパス(埼玉)



白山キャンパス(東京)



川越キャンパス(埼玉)



赤羽台キャンパス(東京)

力を底上げする「キャンパス内留学英語講座」がスタートしました。東洋大学は2014年に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」(SGU)に採択されて以来、英語教育や国際交流に注力し、学生の英語力向上や海外協定校の大幅な拡充を果たしてきました。しかし、英語が苦手なままの学生も一定数存在し、英語の大切さを認識しつづもコンプレックスを抱えてしまうケースがあるのだといいます。

「経済的な事情から海外留学を断念せざるをえない学生も存在し、なおかつ円安を経験しておくべき」という指導は現実的ではない場合もあります。本学では英語力向上に意欲的な学生のためにECCと協定を結び、無料で講座を受けられる『キャンパス内留学英語講座』を始動させました。『英語が苦手なあなたのために』というスタンスで発信したところ、これまで英語を避けてきた学生からも好評のため、さらなる拡充を進めています(矢口学長)

新たに「学校推薦入試基礎学力テスト型」を導入

東洋大学が全国から注目される要因の一つに、独自の入試改革があります。多くの大学が総合型選抜や学校推薦型選抜など、志望理由書や小論文、面接を重視する年内入試にシフトする中、年明けの一般選抜を軸に、多教科入試で学力を重視する姿勢を貫いています。入学後の学修を円滑に進めるためにも複数教科における基礎的な力が求められています。その上で、新たな選抜方式として2024年12月に実施されるのが「学校推薦入試基礎学力テスト型」です。全学部全学科・専攻で導入され、受験生は英語と国語、または英語と数学のどちらか2教科の基礎学力テストを受験します。他大学や東洋大学の一般選抜との併願も可能です。「試験は12月1日に行いますので、年明けの一般選抜に向けて対策を進めながらトライするなど、東洋大学を目指す受験生にはぜひ挑戦してもらいたい入試です。本学としては受験生の選択肢を広げつつ、入学時の学力も担保されると考えています(矢口学長)

「有名企業や上場企業に就職しても、3年後に退職して別の業界に転職するケースも珍しくありません。だからこそ学生には、いかなる分野でも生かせる素養を『総合知』教育によって身につけてほしいです。いかなる分野でも決して揺るがない『自分への信頼』を4年間で築いてほしいと考えています。自分への信頼は、課題解決力やコミュニケーション能力といった言葉で表現できるものではないかもしれませんが、それでも、教職員や仲間を支えられながら過ごしていく4年間の経験一つひとつが自分を見つめ直し、自分らしさを『哲学する』機会となるはず。その上で、本学が教育理念に掲げる『他者のために自己を磨く』ことの大切さに気づき、どんなフィールドでも誰かのために力を尽くせる人間へと成長していったほしいのです。また、学生たちには人間ならではの面白さを手放さないでほしいと思っています。コンピュータでできることはたくさんありますが、人間同士でなければ得られない経験を恐れたり、敬遠したりせず、人間として生きていくことを楽しんでほしいと思っています」



やくちえつこ
矢口悦子学長

1980年お茶の水女子大学文教育学部教育学科卒業。86年同大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得満期退学。博士(人文科学)。専門は社会教育学、生涯学習論。お茶の水女子大学非常勤講師、千葉大学非常勤講師などを経て2003年より東洋大学文学部教授、社会貢献センター長、文学部長ののち2020年より現職。

哲学者の井上円了博士が1887年に創立した「私学哲学館」を起源とする東洋大学は、2037年に迫った創立150周年に向けて、数々の改革を推進。赤羽台・朝霞両キャンパスの再編と学部学科の改組に続き、2027年には川越キャンパスに環境イノベーション学部(仮称)の新設を目指しています⁽¹⁾。

学力を重視する独自の入試改革にも取り組み、25年度から「学校推薦入試基礎学力テスト型」が新たに実施されます。さらに、来春からは学部学科を超えて自由に学ぶ「総合知」教育が始動。時代を先取りした改革によって、14学部49(25年度からは51)学科・専攻に集う学生一人ひとりの強みを伸ばす取り組みを推進します。

東洋大学

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 入試部 <https://www.toyo.ac.jp/nyushi/>

学部・キャンパス再編から入試改革、新たな英語教育の導入まで「総合知」を養う大学改革を推進

人類の未来を左右する 根源的な問いを探究

数々の改革を推し進める東洋大学では、2023年度に赤羽台キャンパスが「完成形」となり、2024年度から朝霞キャンパスが新たな体制でスタートしました。同キャンパスは「命と食が輝くスマートキャンパス」と名付けられ、生命科学部3学科と食環境科学部3学科が集結。地球環境対策が喫緊の課題である現代社会において、人類にとって根源的な命・食に関わる新たな研究拠点として期待されています。なかでも食環境科学部に設置されたフードデータサイエンス学科は、既存学科の再編ではなくゼロから新設した学科です。農業経済とデータサイエンスを融合させた同学科について、矢口学長は次のように話します。

「食は生産から流通、消費までのあらゆる段階で効率化や品質向上、サービス向上が求められ、今やデータサイエンスの活用なくしては機能しない分野です。安定的な生産と供給のためのデータ活用から、商品開

14学部の強みを生かす「総合知」教育がスタート

東洋大学では、14学部を擁する総合大学としてのメリットを学生がより強く感じられるよう、2025年度入学生から「総合知」教育を導入。所属学部・学科で専門性を身につけるほか、他の学部学科の開講科目を広く学べるよう、オンデマンド科目を含めて合計約600科目が用意され、学生は学びたい科目を自由に選んで履修することができます。学部・学科や学年も不問で、自宅に近いキャンパスでの対面開講科目の履修も可能です。

「『総合知』教育は3万人の学生一人ひとりを大切にす教育です。学生によっては一般教養と感じるかもしれませんが、別の学生はリベラルアーツ教育として受講するかもしれ

ませんが、3万通りの学びの道筋と3万通りの総合知が生まれると考えています。現代は『情報系ではないからプログラミングはわからない』『生命科学が専門だから歴史や世界情勢は知らない』では通用しない時代です。一つの専門性だけでは不十分であることは、幅広い現場で実感されていることであり、だからこそ文理融合の考えに基づいた総合知が求められているのです(矢口学長)。ただし、600科目から学生が自分の興味・関心に沿った科目を選び出すのは容易ではありません。そこで活用が見込まれているのが、在学生の99%が利用している「東洋大学公式アプリ」です。学びの選択肢が膨大にあるため、AIを駆使して学生をサポートする仕組みをアプリに加えようと、同大の職員が開発を進めています。

「どの科目を履修するどんな力が身につくのかを、AIが提案する仕組みを学内のアプリチームが開発しています。ただし、より便利なアプリにしながらも、最後は先輩や教職員に相談した上で、学生自身が主体的に判断するためのツールにしたいと考えています。人は人ではない育てられない」という思いがあるので、最後は人につなぐことを重視しているのです(矢口学長)

英語力の底上げを図る「キャンパス内留学英語講座」

2024年度からは、学生の英語